

「スウェーデンへ行って改めて感じたこと」

愛知県立岡崎商業高等学校国際ビジネス科3年 石川樹里

私がこの事業に応募したのは、海外の中で一番、スウェーデンに興味を抱いていたためです。興味を持ったのは、中学3年生のときでした。私のクラスに、ウッデバラ市から留学生がやってきました。三日間の学校と、友人の家でウェルカムパーティーを開き、一緒に過ごして感じたことがありました。何かが私たちと違う。私は、留学生の子がすごく堂々としていて、自分を出しているように見え、かっこいいと思いました。私も、周りを気にせずに、自分のしたいようにできたらいいのと思いました。スウェーデンの文化についても、それまでは知らなかったことを留学生が教えてくれました。その女の子は、私が初めてしっかりと英語を使って会話をした初めての海外の友人でした。それまでの私は、何かに夢中になることはなかったのですが、初めて海外に興味を抱きました。私はいろいろな国の方と関わりたい、文化を実際に肌で感じたい、英語を使いたい、海外に行きたい、自分の知らない世界を知りたい、と思うようになりました。



映画「魔女の宅急便」のモデルとなった橋の下で。

そして昨年秋、岡崎市の姉妹都市、スウェーデンのウッデバラ市へ一週間留学できるという事業が学校で紹介されました。私はそれを聞いた瞬間、頭に中学生の頃に留学生としてやってきた子が浮かびました。また海外の方と関われるなんて、憧れていたスウェーデンに行くことができるなんて、こんなにうれしいチャンスはない、絶対に行きたいと思いました。私はこの時、自分の行動にびっくりしました。私の強い想いを周りの人たちに語り続けました。幸せなことに、交換留学生として、選ばれました。私は、たくさんのことを学んで帰ってこようと決めました。行くまでの何ヶ月もの間がすごく長く感じて、今年の8月23日、ついにスウェーデンへ飛び立ちました。

スウェーデンのストックホルムに着き、街に出た時の感動は忘れられません。建物、人、言葉、空気、雰囲気。何もかもが日本と違い、やっとスウェーデンに来たんだと思いました。私たちが到着するとすぐに通訳の方が迎えてくれました。英語を聞き取ったり、口にしているうちに、英語がどれだけ大切なのか、もっと話すことができたなら、たくさんの発見もあったのでは、と感じました。一週間で、スウェーデン料理も食べて、日本でいつも食べるような料理も食べることができ、スウェーデンの料理は、日本人の口にあっていて、どこか似ている気がします。スウェーデンの食べ物は、向こうの雰囲気の中で食べるため、より美味しいと感じたのかもしれませんが。家に帰ってからスウェーデンのお土産を食べてみると、スウェーデンにいた時に食べた感覚とは違いました。



ノーブル博物館前の広場

その場の雰囲気や、周りにいる人によって、口にするものの感じ方も違って来るのだと分かりました。日本食のレストランもあり、普段私たちが食べているものを、スウェーデンの方たちにも食べてもらえていると思ったら、すごく嬉しくて、私も普段からスウェーデンの料理を食べたいと思いました。

ウッデバラ市では、クルーズ体験やホームステイ、学校訪問をさせていただき、それぞれの場所で気づいたこと、学んだことがたくさんありました。私は、スウェーデンの私たちと同じくらいの年の高校生たちと会って、嬉しい時や寂しい時、楽しい時に全部表情に出してくれるから、意思もはっきりしていて、相手の気持ちがすごく分かるのだろうと、うらやましく思っている自分がありました。皆フレンドリーで、堂々としていて、自分がここにいたら、今よりももっといろいろなことに挑戦しようという気持ちになって、やりたいことに向かって積極的に取り組んでいけそうな気がしました。私は日本に帰っても、スウェーデンの高校生のように、とにかく前を向いて生きていこうと思いました。

ウッデバラ市は、どこを見渡しても風景が綺麗でした。建物もたくさんありましたが、それ以上に自然がいっぱいで、緑が多い街でした。空気が本当に綺麗です。私は常におとぎ話の中にいるような感覚でした。ウッデバラ市を知ることができ、ウッデバラ市の方にも、岡崎市をよく知ってもらえたら嬉しいです。私達が一週間安全に、楽しく過ごすことができたのは、周りにいる方たちの支えがあったからです。一人ではできないことも、皆さんの協力があり、無事にこの事業を終わらせることができました。私は一週間、今までで一番濃い時間をたくさんの方と関わって過ごすことができました。英語の大切さも学びましたが、それ以上に大事なことは、笑顔だと感じました。私は辛かったこともありましたが、笑顔でいることによって、どんなことでも小さくてちっぽけに思います。笑っていることで、お互いに安心感が得られるのです。そのため、世界共通で大切なことは笑顔だと思いました。この交換留学の経験から、私の将来の視野も広がり、もっとたくさんの方に積極的に挑戦したいと思いました。この出会いと挑戦をきっかけに、周りの方への感謝を忘れず、日々努力していきたいと思いました。



ウッデバラ市長との会食にて